

VI 生涯学習課

1 庶務係

蟹江町社会教育委員名簿

職名	氏名
委員長	黒川勝好
副委員長	神田雅彦
委員	上野久博
委員	今井雅良
委員	伊藤辰男
委員	山田久子
委員	岸幸雄
委員	飯田數義
委員	伊藤清敏
委員	加藤俊男
委員	杉野弘行

(敬称略)

(1) 社会教育委員の活動状況

① 社会教育委員会議の開催状況

ア 社会教育委員会議の構成

(ア) 会議の種類

定例会(年2回開催5月・11月)

(イ) 構成員

社会教育委員、教育長、教育次長、生涯学習課長、生涯学習課長補佐
2名、図書館館長

② 会議の運営状況

平成26年度における蟹江町社会教育委員の定例会の主な活動状況は次のとおりである。

開催日	議案・報告事項等
平成26年 5月28日 (定例会)	【協議事項】 1 平成25年度事業報告について ア 生涯学習課関係事業報告について イ 蟹江町図書館事業報告について
開催日	議案・報告事項等
平成26年 5月28日 (定例会)	2 平成26年度事業計画について ア 生涯学習課関係事業計画について イ 蟹江町図書館事業計画について
平成26年 11月14日 (定例会)	【協議事項】 1 平成26年度事業経過報告について ア 生涯学習課関係事業報告について イ 蟹江町図書館事業報告について 2 平成27年度事業計画(案)について ア 生涯学習課関係事業計画について イ 蟹江町図書館事業計画について

2 生涯学習係

(1) 公民館事業

講座・各種教室の開催(平成26年度実績)

① 公民館講座

講座・教室名	中央公民館		
	開催数	募集人員	参加数
羊毛フェルト	4回	20人	12人
カラーコーディネート講座	5回	20人	19人
水彩画教室	5回	20人	10人
フラダンス教室	3回	15人	18人

② 公民館自主グループの支援

公民館講座の修了者が、結成した自主グループに対し、施設利用料の一部を減額することで、団体活動を支援し、公民館活動を促進する。

〔点検・評価〕

中央公民館・分館では、生涯学習・文化活動の拠点として、学習や交流の場を提供するため、各種講座を開設している。また、参加者に対するアンケート調査を実施し、今後も町民のニーズに応えられるような講座を開設していくことに努めていく。

(2) 家庭教育・人権教育

① 家庭教育講座

講座・教室名	開催数	募集人員	参加数	開催場所
わくわく子育て教室	5回	20 家族 40 人	9 家族 18 人	蟹江中央公民館
親と子の料理教室	1回	16 組 32 人	16 組 32 人	蟹江中央公民館
オオクワガタを育てよう	1回	30 家族 60 人	38 家族 86 人	蟹江中央公民館
ちょこっと探検隊	1回	20 組 40 人	16 組 32 人	愛知県防災航空隊 トヨタテクノミュージアム
親子キャンプ教室	1回	70 人	18 家族 62 人	愛知県設楽町 つぐ高原グリーンパーク

〔点検・評価〕

わくわく子育て教室の参加者数は、昨年度好評であったが、今年度は残念な結果となった。

親と子の料理教室は、人気のキャラクターを題材にしたのが良かったため、申し込みが多く抽選となった。今後もニーズにあったものを取り入れていくことが必要と思われる。

オオクワガタを育てようは、親子でオオクワガタを幼虫から成虫になるまで、観察しながら育て、親子の絆を強めることを目的とした講座で、予想を上回る参加があり、関心の高い事業であることが確認できた。

親子キャンプ教室については、24 年度宇賀溪キャンプ場、25 年度は朝明キャンプ場で事業を行った。参加申し込み者が少なく、今年度は、つぐ高原グリーンパークで事業を行ったが、好評のうちに終わることができ、来年度以降も目的は継続していく考えである。

(3) 青少年健全育成

① 青少年健全育成講座

講座・教室名	開催数	募集人員	参加数	開催場所
子ども料理教室	2回	各24人	11人 9人	蟹江中央公民館
バルーン教室	1回	20人	申込者少 数のため 中止	蟹江中央公民館

② 成人式

「はたち」を迎える新成人が、明るい未来の担い手としての自覚を持ち、社会人としての責任ある行動をとることを願い、地域社会全体で祝い励ます。
(開催日：平成27年1月11日(日) 対象者：417人 参加者：330人)

③ 青少年相談事業

青少年問題協議会専門委員による相談事業を毎月1回、中央公民館分館にて実施している。

④ 青少年健全育成運動

青少年の非行防止のため、指導者研修会や街頭指導を年2回実施している。

[点検・評価]

子ども料理教室は参加応募者数が停滞し、また、バルーン教室はプール出校日と重なってしまったため、参加者が集まらなかった。講座の開催日、事業内容について、町民のニーズに応じているか検討を要する。

成人式は、町外へ転出している方も出席できるよう、窓口を広げていることもあり、出席率もよい。また、女性からは午後の開催ということが、着付けに早朝から行かなくてもよいことが好評である。

(4) 生涯学習関係団体育成

① 蟹江町文化協会

文化協会の円滑な運営及び芸術文化活動の充実に資するため、補助金を交付し指導・育成する。

9部門 41団体 640人 補助金 1,124,000円

② 蟹江町婦人会

婦人の地位向上や心豊かな地域社会の発展に寄与することを目的に、婦人会に対し補助金を交付し支援する。

9 支部 14,600 世帯 補助金 1,180,000 円

③ 蟹江町小中学校 P T A 交付金

学校と連携を密に、教育の充実と地域社会の発展・振興に寄与する P T A 活動に対し、交付金を交付し支援する。

7 小中学校 2,907 人 交付金 1,330,680 円

[点検・評価]

町民が健全で豊かな生活を営むために、社会教育関係団体に対して補助金(交付金)を交付することにより、町民の健康と地域文化の向上並びに町民相互の親睦を図ることができた。

(5) 生涯学習まちづくりの推進

① 生涯学習まちづくり推進町民大会の開催

青少年健全育成・家庭教育推進・生涯学習の推進を促す町民大会として開催した。

- ・ 開催日 平成 26 年 7 月 6 日(日) 開催場所 蟹江中央公民館集会室
- ・ 講師 渡辺えり氏
演題 「夢見る力」舞台に恋して
- ・ 入場者 748 人

② 文化祭の開催

町内における文化振興を図り、各種文化団体(または個人)の親睦と連携を深め、併せて生涯学習まちづくりを推進する。

- ・ 開催日 平成 26 年 11 月 1 日(土)・2 日(日)
展示の部 1,961 人
芸能の部 34 団体 485 人
- ・ 開催場所 蟹江中央公民館・蟹江町体育館

③ 創年式の開催

60 歳を迎えた方が集い、人生の節目を共に喜び合い、地域への連帯感を確認しながら人生の再出発を祝う。

- ・ 開催日 平成 26 年 10 月 26 日(日) 対象者：436 人 参加者：54 人
- ・ 内容 式典、各種相談コーナー
(健康相談・ボランティア・生涯学習啓発)
- ・ 講演会 佐治泰直「人生を楽しく生きる方法」
- ・ 開催場所 蟹江中央公民館分館

〔点検・評価〕

生涯学習まちづくり推進町民大会は、知名度が高く集客力のある講師により、参加者を多く迎えることができた。日曜日に開催日を変更して第 7 年目にあたり知名度があり、集客力のある講師選定が必要不可欠である。

また、今年で 7 回目の創年式を開催した。対象者から見ると出席率が平成 20 年度が 31%、平成 21 年度が 21%、平成 22 年度は 27%、平成 23 年度は 16%、平成 24 年度は 10%と、平成 25・26 年度 8%と低いのが課題である。なお、今年度は健康推進課と共に 6024 歯科事業を行ったが、事業方針に再度検討を必要とする。

3 歴史民俗係

(1) 歴史民俗資料館利用状況

開館日数及び入館者数(内講座利用者)

- ① 開館日数 306 日
- ② 入館者数 11,717 人(402 人)
- ③ 1 日当たり 38.3 人

〔点検・評価〕

平成 26 年度は、全体の入館者数は 25 年度に比べて若干減少した。内訳としては、講座受講者数は増加の傾向にあったが、団体見学者の減少による影響が数字にあらわれたようだ。特にウォーキングやハイキングのコースとなった場合、そのコース設定や天候に左右されることもある。こうした観光事業とタイアップすることで来館者増加をはかるのも有効であるが、講座参加者や特別展見学者などのベースとなる来館者を増加させていくことも大切である。

(2) 収集・保管

- ① 収蔵資料点数 4,153 点
- ② 郷土文化資料購入

館蔵資料の充実のため、郷土の文化人や町の歴史に関する資料等を購入した。

尾張国海東郡蟹江本町村文書	一式
小酒井不木 掛軸	1点
宇佐美江中 絵画	1点

③ 資料の寄贈・寄託

町内外の方から関連資料 72 点の寄贈、6 点の寄託を受けた。

〔点検・評価〕

平成 26 年度においては、購入資料 3 点、寄贈資料 72 点、合計 75 点の資料を収蔵、加えて 6 点の資料の寄託をうけた。

購入資料については、町民の方の理解を得るため、定期的に公開をしていく計画である。資料の寄贈・寄託については、持ち主の方から資料館の役割についての理解と信頼をいただいてこそのことである。期待に沿えるような活動を行っていかなくてはならない。

一方、資料の数は年々増加し、既存施設では収容力不足となりつつあり、新たな収蔵施設の充実を図る必要があると思われる。また、収蔵資料情報や、周辺の画像資料などもデジタルデータとして保管していく必要があり、資料保存のための周辺機器や設備を整備する必要がある。

(3) 展示

① 常設展示の充実

年間を通じて、テーマを設定し、郷土の歴史、民俗にかかる資料の展示を行い、さらに購入した郷土文化資料や新たな寄贈資料を加えるなどし、常設展示の充実を図った。

② 企画・特別展示

町の歴史・民俗関連の企画展・特別展を実施した。

ア 特別展

- ・ 「描かれ・語られ・うたわれた蟹江」
展示場所 企画展示室
展示期間 平成 26 年 11 月 1 日～11 月 30 日 来館者数 959 人
- ・ 「貝殻からみえる昔の暮らし」
展示場所 企画展示室
展示期間 平成 27 年 2 月 14 日～3 月 22 日 来館者数 1,479 人

イ 企画展

- ・ 「須成祭パネル展」
展示場所 ロビー展示
展示期間 平成 26 年 7 月 16 日～8 月 22 日

- ・ 「エコきつず調査隊成果発表展」
展示場所 ロビー展示
展示期間 平成 26 年 8 月 26 日～9 月 7 日
- ・ 「蟹江町想いでの写真展」
展示場所 ロビー展示
展示期間 平成 26 年 10 月 24 日～11 月 9 日
- ・ ミニ企画展「昭和のひなまつり」
展示場所 民俗展示室
展示期間 平成 27 年 2 月 7 日～4 月 3 日

〔点検・評価〕

展示活動は、資料館が資料収集した資料等を調査研究したうえで公開するもので、資料から一目で学習情報を読み取り理解できるという学習効果が望めるという資料館の重要な事業の一つである。

平成 26 年度の特別展においては、「描かれ・語られ・うたわれた蟹江」では絵画や文学作品のなかで蟹江が取り上げられた事例を集め、昔の蟹江が分かりやすく理解できたと好評を得た。「貝殻からみえる昔の暮らし」では、蟹江町内ではなぜ貝殻が地面に落ちているのかを、考古、歴史、民俗と多方面から分析し、多くの方の関心を集めた。こうした展示をすることによって来館者から新たな関連情報を得ることもでき、収穫となった。

来館者の満足度の高い内容の展示テーマを設定するためには、そのニーズを汲みとるだけでなく、調査・研究の成果から新しい情報を提供するうえで、関心を高めるような展示手法を工夫していくことも大切である。

(4) 調査・研究

① 資料館関連資料についての調査・研究

展示内容の充実を図るために、関連資料等の調査・研究を行った。

② その他調査

愛知県史編纂等に伴う調査への協力等を、依頼に応じて随時行った。

〔点検・評価〕

資料を展示し、教育普及・情報提供活動に供するうえで、調査・研究活動は資料館運営の根幹事業である。これからも、調査・研究事業を円滑に進めていくためには、関係各位の協力が不可欠であり、地域との連携が重要になってくるであろう。

(5) 情報提供

① 各種印刷物等の発行

歴史民俗資料館年報第 35 冊出版

歴史民俗資料館児童用パンフレット刷新

② 関連機関発行の印刷物等への情報提供

新聞社、出版社、放送局などの機関に対し、町の歴史や民俗に関する情報提供を、依頼に応じて随時おこなった。

[点検・評価]

歴史民俗資料館年報 35 冊については、教育委員会及び県立図書館などに寄贈したほか、既刊の印刷物とともに窓口で有料配布を行い、資料を持ち帰って学習したいという来館者のニーズに対応している。また、近年、報道機関等からの情報提供の依頼も増加しており、速やかに対応できるよう、データベースを整備しておくことも重要になってきている。

(6) 教育普及

① 主催講座

講座・教室名	中央公民館分館ほか		
	開催数	募集人員	参加数
古文書を読む会	8回	30人	22人
「かにえ地域学」講座	8回	20人	13人
環境学習 エコきつず調査隊	5回	20人	15人
郷土体験学習会	5回	25人	5回計 51人
海部歴史研究会講演会	1回	170人	110人

② 出前授業

小中学校に呼びかけ、資料館学芸員が学校に出向いて蟹江町の歴史や文化についての解説をした。

開催日	学校名	内容
平成 26 年 5 月 29 日	新蟹江小学校	蟹江の祭りについて
平成 26 年 6 月 12 日	新蟹江小学校	昔の道具について

平成 26 年 6 月 19 日	新蟹江小学校	蟹江の郷土食について
平成 26 年 7 月 10 日	蟹江小学校	須成祭について
平成 26 年 10 月 9 日	新蟹江小学校	盛んだった漁業について
平成 27 年 2 月 24 日	舟入小学校	蟹江の祭りについて

〔点検・評価〕

地域の歴史や民俗に関する各種講座を実施した。平成 26 年度は新たに、「かにえ地域学」講座を開設、歴史、文化に加えて産業などの現地学習をし、蟹江の魅力を発見するものとしてガイドボランティアのフォローも出来るような内容で実施した。ガイドボランティア、福祉ボランティア、地域のまちづくりなどに関わる方々の参加者も多くあり、有意義なものとなった。

平成 25 年度から呼びかけを開始した出前授業では、26 年度も多数の要望があった。子どもたちの郷土学習への関心を高めることができるよう継続して実施していきたい。

4 文化財保護係

(1) 文化財保護審議会の開催

役員改選による委員長選出と、平成 26 年 3 月に須成祭がユネスコ無形遺産候補となったことからその経緯の報告をおこなった。

開催日 平成 26 年 5 月 27 日 出席委員 6 人

(2) 文化財保護等補助事業

町内文化財保護団体に対し、文化財保護にかかる経費の補助を行い、歴史・文化の形成を正しく理解する上での基礎資料である文化財を、過去から未来に保存・伝承し、活用を図る等、人的・物的支援を実施した。

事業数：国指定無形民俗文化財伝承活動事業始め 6 事業

補助団体件数：須成文化財保護委員会始め 22 件 町費補助額 3,088,000 円

(3) 文化財資料出展公開事業

10 月の町民まつりに併せて、各町内会に協力を依頼し、町内に存する神楽屋形や祭囃子等をまつり会場にて出展公開した。

公開期日 平成 26 年 10 月 12 日(日)

協力町内会 須成、蟹江新町、今、源氏才勝、西大海用、本町分、舟入

(4) 重要文化財公開事業

国指定重要文化財である龍照院の十一面観音立像と富吉建速神社・八劔社本殿の公開を毎月 18 日に行ったほか、事前申し込みにより随時公開を行った。

(5) 文化財普及・啓発事業

重要無形民俗文化財に指定された須成祭が、ユネスコ無形文化遺産候補の32の祭りの一つに選ばれた。そのうち愛知県内の5つの祭りに関わる6つの市町が登録に向けて協力していこうと、協議会を立ち上げ、共通の啓発用ポスター・リーフレットを作成し、配布した。

〔点検・評価〕

文化財保護委員会では、役員改選と文化財についての経過報告を行ったが、各委員からさまざまな意見を伺うことができ、今後の文化財保護行政の参考となった。

補助事業については、指定文化財だけでなく、郷土芸能伝承団体とも密に連絡をとりながら行い、適正な補助金交付に努めるとともに団体の活動を見守っていくことが重要である。

文化財出展公開では、町民まつり会場において神楽や須成祭囃子を披露することで、郷土芸能の伝承活動の活性化につながるとともに、多くの方へ地域の芸能について情報発信をすることができた。

文化財公開に際しては歴史文化ボランティアの人材を活用することにより文化財に対する理解などを深める効果があった。

文化財普及・啓発事業については、須成祭がユネスコの無形文化遺産候補となったことから祭りへの関心が高まりつつあるが、祭りの内容だけでなく、無形文化遺産となることの意味や文化財としての価値について、町民をはじめとした多くの方々に理解していただくよう努力していかななくてはならない。登録の可否の決定は平成 28 年秋だとされ、今後も広域での活動とともに、広報や観光部局等とも連携をとりながら事業をすすめていく必要がある。

5 生涯スポーツ係

(1) スポーツ事業

① 各種スポーツ教室

町民が日常生活の中にスポーツを取り入れ、楽しみながら体力向上と健康増進を図ることを目的として開催した。

講座・教室名	開催数	募集人員	参加数	開催場所
ヨガ教室	5回	60人	52人	蟹江町体育館
ノルディックウォーキング教室	2回	60人	23人	日光川ウォーターパーク周辺 給食センター周辺

〔点検・評価〕

講座・教室の参加応募は、ヨガ教室については52名で昨年の55名から若干減少した。ノルディックウォーキング教室は、3年目の開設講座であるが、参加者数が思いの外少なく、開催を検討していく必要がある。今後、時期・時間帯等を検討し、住民ニーズの把握に努め、参加者が参加しやすい講座・教室を開催していく。

(2) スポーツ推進委員・地区スポーツ協力員

町民がスポーツ及びレクリエーション活動をすることにより、体力の維持・向上を目指しスポーツ推進委員、地区スポーツ協力員を教育委員会が委嘱する。

① スポーツ推進委員

- ・ 平成26年度委嘱 18人

② 地区スポーツ協力員

平成26年度 42人

③ 各種講習会

- ・ 指導者研修会

ニュースポーツフェスティバル開催に向け、スポーツ推進委員及び地区スポーツ協力員に対し、指導・普及を目的として講習会を開催した。

【種目】 体力テスト、ドッジボール、キンボール、カローリング、
クロリティー

- ・ スポーツ推進委員各種研修会
ラジオ体操、ビーチボール

〔点検・評価〕

スポーツ推進委員が、各種研修会へ積極的に参加しスポーツ推進委員の資質向上を目指す。また、地域社会の活性化と住民の豊かな心と健康を図るため、生涯スポーツを推進し、その手段の一つとしてニュースポーツを通じて、町民の運動への関心を高めることが重要であり、スポーツ推進委員を中心として、地区スポーツ協力員と連携し各種教室・大会を開催した。

(3) スポーツ団体の指導・育成

① 生き生きかにえスポーツクラブ

総合型地域スポーツクラブとして平成22年3月14日に設立し、平成26年10月29日にNPO法人を取得した。

- ・役員 理事 6人 監事 1人
- 会員数 579人
- 講座数 常時 20講座 短期 6講座
- イベント 3回(バスハイキング(長浜市、伊勢神宮等散策))
- スポーツ塾体験
- ・交付金等 交付金 3,000,000円

② 蟹江町体育協会

体育、スポーツの振興と普及を図り、町民の体力向上を資すると共に、健康で明るい社会の建設を目的とする協会の活動に対し、指導・育成する。

16団体 1,205人 補助金 2,406,000円

③ 蟹江町スポーツ少年団

青少年がスポーツを通じて心身を鍛錬し、青少年の健全育成に資することを目的とした団の活動に対し、指導・育成する。

14単位団 団員488人 指導者121人 補助金660,250円

[点検・評価]

スポーツ関係者の理解・協力を得て、設立準備委員会、運営委員会を重ねた結果、海部地区で2番目となる総合型地域スポーツクラブ「生き生きかにえスポーツクラブ」が設立され、5年目となった。前年度と比較すると、収支継続会員数共に増加し、順調に運営されている。平成26年10月29日に法人格を取得した。

体育協会・スポーツ少年団は自主運営がなされているが、会員・団員の増員を図ることや、庶務等の生涯学習課からの事務移譲が課題である。

(4) 各種協議会・大会の開催

① 第10回ニュースポーツフェスティバル(民生部 健康推進課 共催事業)

気軽に楽しめるニュースポーツを通して、明るい町民生活に寄与することを目的として開催する。また、体力テストの実施により健康維持増進に役立つ。

- ・実施日 平成26年9月7日(日) 参加者数/97人
- ・開催場所 蟹江町中央公民館

② 第33回 蟹江町みんなで走ろう会

みんなで走ることにより、体力づくりと家族のふれあいや友達との親睦を深めることを目的として開催する。日光川ウォーターパークを発着点として、「3km」及び「ジョギング」の2部門を実施した。

- ・ 実施日 平成26年12月14日(日) 参加者数/357人
- ・ 開催場所 日光川ウォーターパーク周辺

③ 第35回 蟹江町駅伝大会

チームで走ることにより、相互の親睦と協調性を高め、地域住民のスポーツの振興を図ることを目的として開催する。新蟹江小学校を中継点に、5人1組で、「17.3km」及び「12.3km」の部門と、今年度から「小学生の部」の変更により、ウォーターパークと新蟹江小学校を中継地点とした6人1組で「10.9km」の部門が新たに創設され実施した。

- ・ 実施日 平成27年1月25日(日) 参加チーム/149チーム
- ・ 開催場所 新蟹江小学校周辺

④ みんなで歩こう会(年2回開催)

みんなで歩くことにより、体力づくりと家族のふれあいや友達との親睦を深める。また、ウォーキングの習慣を身に付けることで健康増進を図ることを目的として開催した。

- ・ 実施日 平成26年6月1日(日) 場所 三重県尾鷲市 参加者80人
- ・ 実施日 平成26年11月9日(日) 場所 岐阜県関ヶ原 参加者59人

⑤ 愛知万博メモリアル第9回愛知県市町村対抗駅伝競走大会

2005年「愛知万博」を次世代へ語り継ぐと同時に、愛知県内の市町村の交流、市町村合併後の一体化促進、県民意識の高揚、県民スポーツの振興を目的として開催され、参加した。

- ・ 実施日 平成26年12月6日(土) 開催場所 愛・地球博記念公園
- ・ 内容 小学生の部から40歳以上の部まで男女11名による継走
- ・ 出場者 一般公募により選手選考を経て選手決定
- ・ 成績 町村の部 16町村中8位

〔点検・評価〕

昨今の健康志向により、豊かな自然や町並み散策を兼ねたジョギングやウォーキングなどへの参加者は年々多くなってきている。毎年、秋の参加者が少ない点が課題となっている。

蟹江町駅伝大会は、昨年度、小学生の部の変更があったが今年は距離を測り直し正確なものとした。ニュースポーツフェスティバルは、もう少し参加者が多くなるよう内容を再検討し、より多くの住民が参加したいと思うイベントにしていきたい。

(5) その他

① スポーツ表彰

蟹江町在住・在勤の者が、全国規模のスポーツ大会に蟹江町及び愛知県の代表選手として出場した場合、栄誉を称えるため蟹江町功労者表彰により表彰した。 表彰者／ 7人

② 全国大会等出場選手奨励金支給

アマチュアスポーツ競技の全国大会等に選手として出場する個人または団体の小・中学生に対し、奨励金を支給する。 該当者／ 1人

③ スポーツカレンダーの発行

- ・ 町及び町体育協会等の実施する、年間スポーツ行事を掲載したカレンダーを全戸作成することで、町民に事業参加を促し、スポーツ振興・健康づくりの推進に寄与する。
- ・ 年1回 4月発行 1,000部

〔点検・評価〕

全国規模の各種スポーツ大会へ出場するにあたり、表彰されたり、奨励金を支給されたりすることは、その後のスポーツ活動の糧となり励みとなっている。今後も、功労者への支援を継続していきたい。

6 女性対策係

(1) 女性対策

女性教育研修会

蟹江町婦人会代表者研修

- ・ 社会教育活動を推進するため、地域活動の担い手に対して社会教育活動を企画実施するうえで必要な知識や技術の習得と、市町村を超えた情報交換の機会を設け、地域及び県域で活躍でき、社会教育を担っていく指導者としての資質向上を図ることに役立てる。

〔点検・評価〕

国・県主催による女性の地位向上に向けた研修事業等に参加し、男女共同参画に関わる学習事業を企画する必要がある。女性教育活動推進のため、民間の女性教育指導者に対し、女性教育指導者としての資質向上を図る研修事業等に参加を求めていく。

7 施設係

(1) 生涯学習施設、設備及び備品の整備

- ① 歴史民俗資料館及び蟹江町体育館分館の施設老朽化に伴う改修を実施した。
 - ・ 歴史民俗資料館 2階展示室エアコン交換工事 612,360円
 - ・ 蟹江町体育館分館 内装・照明改修工事 47,844,000円
 - 同設計監理 1,913,760円
- ② 体育館分館内装・照明の施設老朽化に伴う改修計画を策定した。特に、体育館分館を総合型地域スポーツクラブのクラブハウスとして効率的に利用した。
- ③ 生涯学習施設をPRし、使用方法等を周知し、更に一層の利用促進を図った。
- ④ 学校体育施設を町民の健康増進及びスポーツ振興を図るため、町内小・中学校の屋外・屋内体育施設を町民に開放した。

〔点検・評価〕

グラウンド、テニスコートの有料化も定着してきた。総合型地域スポーツクラブが発足し、今までの体育協会等の既存利用者の利用既得権が強いことから、「生き生きかにえスポーツクラブ」の活動場所の確保が困難であったが、体育施設の有効かつ効果的な利用を推進するために、利用頻度の少ない施設の活用及び、連絡調整に努めた。

施設の老朽化にともない、平成26年度は蟹江町体育館分館の内装・照明改修工事、蟹江町歴史民俗資料館の2階展示室エアコン交換工事を実施し、また、中央公民館の玄関ポーチ土間タイル修繕に勤めた。蟹江町体育館を始めとする生涯学習施設の老朽化が進み、施設改修の必要がある。今後、改修計画等を立案し、それに従って順次メンテナンスを行っていく必要がある。